

# 強く健やかに、逞しくあれ



## 端午の節句の歴史

5月5日を端午の節句として厄除けをしたという記録は、「続日本紀」の中に宮中行事として始めて登場します。奈良時代の聖武天皇（733年頃）の時代にあります。そのころはまだ五月人形を飾る風習はなく、邪氣を払うための、うまゆみ（流鏑馬）の儀式でした。これは、馬の上から弓を射る儀式です。ほかにも菖蒲を飾ったり、皇族や臣下の者たちに薬草を配つたりしていたそうです。端午の節句は子どもに限らず厄除けの大祭な日だったのです。5月5日に菖蒲湯をたてて入るのも、無病息災を感じたものです。

## 五月人形とのつながり

鎌倉時代の武家政治へと移り変わつてゆくにつれ、武士のあいだでは尚武（しょうぶ）「武をたつとぶ」の気風が強く、「菖蒲」と「尚武」をかけて、端午の節句を尚武の節日として盛んに祝うようになりました。やがて江戸時代にはいると、5月5日は徳川幕府の重要な式日に定められ、大名や旗本が、式服で江戸城に参り、将軍にお祝いを奉じるようになりました。

また、将軍に男の子が生まれると、表御殿の玄関前に馬印（うましるし）や幟（のぼり）を立てて祝いました。このような時代の変遷のなかで、薬草を摘んで邪気をはらうという端午の行事が男の子の誕生の祝いへと結びついていったと考えられます。やがてこの風習は武士だけでなく、広く一般の人々にまで広まっています。はじめは、玄関前に幟や吹き流しを立てていたものが、やがて厚紙で作った兜や人形、また紙や布に書いた武者絵なども飾るようになつていったのです。さらに江戸時代の中期には武家の輶に対抗して、町人の間では鯉のぼりが飾られるようになりました。



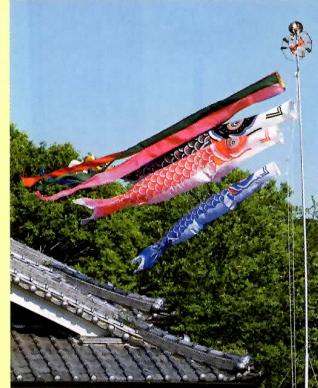
## 男の子の初節句・端午の節句飾り

お祝いをいただいた方へのお返しは  
5月中旬頃までに「内祝い」としてお  
子さんの名前でします。お礼状と一緒に  
黄飯に柏餅・ちまき、或いは鯉の形  
にした砂糖などを贈るのが習わいで  
す。その際はお返しの品物と一緒に赤  
ちゃんの写真とお札状を添える事も  
お忘れなく。お祝いにお招きした方に  
は、お返しは不要です。



※男の子は黒豆の入った黄飯です。

### お祝いをいただいたたら



※鯉のぼりは、5月の爽やかな風によく泳ぎます。5日を過ぎても5月一杯出していただいて、その姿を楽しんで下さい。

### 飾る時期

ひな祭りが終わつたら早めに飾つて下さい。ぎりぎりになつて、慌ててお節句前夜に飾るのは「夜飾り」と言つて縁起が悪いとされますから、控えましょう。初節句の場合は早くから飾つていただいて構いません。

一般的には、端午の節句飾りはお嫁さんの実家から贈られる事が多いですが、今日は可愛いお孫さんのために両家で折半することもあります。五月人形はお嫁さん側で、鯉のぼりはご主人側で用意することもあるようです。ご親戚や、お仲人はケース入りのお人形などを贈るのがよいと思います。

### 贈答のしきたり

## 端午の節句とちまき

端午の節句の食べ物としては、柏餅やちまきを思い浮かべます。これらは日本で最も古いお菓子の形をしたものといわれています。なかでも、端午の節句のちまきにはこんな伝説があるのです。中国は戦国時代、紀元前278年のことです。楚(そ)の国の高名な詩人、屈原(くつげん)は国王の側近としてつかえ、人々からも慕われていました。しかし陰謀のため国を追われることになった屈原はついに汨羅(べきら)という川に身を投げてしまつたのです。その日が5月5日。屈原の死を悲しんだ人々は、たくさんちまきを川に投げ入れて弔いました。この物語が端午の節句にちまきを作つて食べるという風習の起源だと言われています。



## \*お祝い会のお料理、あれこれ

特別な料理や豪華な料理は必要ありません。お母さんの心づくしの手料理と、お菓子があれば十分です。

## \*いわれのある節句のお料理の材料

出世魚…鰯(いなだ)→稚鰯(わらさ)→鰯(ぶり)などが出世魚です。  
鰯……勝男に通じることから欠かせない材料です。  
鯉……元気な鯉のぼりにちなんで鯉の丸揚げも使われます。  
筍……成長の早い筍は、どんどん伸びるということから男の子のお祝いに使われます。  
柏餅……柏餅に使われる葉の柏の木は、新芽が出ない限り古い葉が落ちないことから、家が絶えない、後継者が絶えることがない縁起のいい木として考えられました。  
ちまき……茅(ちがや)の葉っぱで巻いた(茅巻き)からとも、千回巻いた(千巻き)からともいわれています。

